

ニュースクリップ & 映像教材

■2005年教育映像祭「優秀映像教材選奨」に167作品が参加

■「平成17年度著作権セミナー」開催

■「全国マルチメディア学習教材活用コンテスト」参加作品募集

■「第43回日本産業映画・ビデオコンクール」入賞作品

■「第28回東京ビデオフェスティバルーTVF2006ー」参加作品募集開始

■「第4回全国こども科学映像祭」参加作品募集開始

協会情報

■2005年教育映像祭「優秀映像教材選奨」に167作品が参加

(財)日本視聴覚教育協会では、毎年、教育映画、ビデオ、スライド、DVD、コンピュータソフトウェア(CD-ROM)の映像教材の製作振興と利用の向上進展を図る目的で、標記選奨を開催している。今年度の部門別参加作品数は次のとおり。

()内は前年。

〈映画の部〉	6社・12作品
学校教育部門	3作品 (2)
小学校向け	2作品
中学校向け	1作品
高等学校向け	0作品
社会教育部門	3作品 (5)
職能教育部門	0作品 (0)
教養部門	1作品 (4)
児童劇・動画部門	5作品 (2)
〈ビデオの部〉(DVD・スライド	

を含む)	34社・135作品
学校教育部門	58作品 (56)
小学校向け	32作品
中学校向け	12作品
高等学校向け	14作品
社会教育部門	32作品 (35)
家庭生活	11作品
市民生活	21作品
職能教育部門	32作品 (30)
教養部門	13作品 (10)
〈コンピュータソフトウェアの部〉	9社・20作品
学校教育部門	18作品 (12)
小学校向け	9作品
中学校・高等学校向け	9作品
一般教養部門	2作品

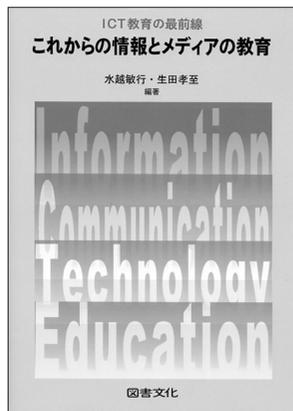
AV情報

■「平成17年度著作権セミナー」開催

文化庁では、著作権に関する基礎的な理解を深め、もって著作権制度の知識や意識の向上を

図ることを目的に、標記セミナーを全国8か所で開催する。〈開催地区ならびに開催時期および申し込み先〉
宮城県(8月18日)宮城県教育庁生涯学習課社会教育支援班(022-211-3653)／栃木県(平成18年1月19日)財団法人とちぎ生涯学習文化財団(028-643-1011)／千葉県(9月15日)千葉県環境生活部文化振興課(043-223-2408)／岐阜県(11月30日)岐阜県教育委員会文化課(058-272-1111)／奈良県(8月12日)奈良県立教育研究所教育経営部(07443-38900)／広島県(12月9日)広島県立図書館(082-241-4995)／島根県(平成18年2月17日)島根県環境生活部文化国際課文化振興室(0852-225878)／香川県(平成18年1月16日)香川県教育委員会事務局文化行政課(087-832-3785)

ブックレビュー



「ICT教育の最前線 これからの情報とメディアの教育」

水越敏行・生田孝至 編著 図書文化
2005年4月刊 A5判 224頁 2,100円 (税込)

社会における情報通信環境は革命的に変化し、良し悪しは別として、ICTにより人々の仕事や生活も大きく変わった。しかし、学校での情報通信環境や教育活動はというと、あまり進展が見られないのが現状だ。

このような学校と社会の情報通信格差を解消するためには、まず、教師が情報やメディアの教育をどう進めたらよいか学ぶ必要があり、その意味から本書は、教師教育用テキストとして役立つであろう。内容は、ICT教育の目標や方法、各教科や総合的な学習等と情報教育のカリキュラム開発等について解説、そして実績のある中・高等学校4校と1大学の実践事例の紹介、これからのICT教育の課題や方向性の解説で構成されている。

本書を読み進むに従って、新

しいICT教育のキーワードとして、カリキュラム・評価、そしてメディアリテラシー・コミュニケーション・情報モラルが浮かび上がってくる。これらの問題は、学校での取り組みを考える時に大きな示唆を与えてくれるだろう。また、巻末に、わかりやすくまとめた情報関連用語集がつけられているが、案外、情報やメディアについて学ぼうとするビギナーにとって壁になっているのが用語で、その点テキストとして効果的に利用できるように配慮がされている。

情報とメディアの教育という書名から、狭いテリトリーの中でICT教育を考えるのではなく、これからの社会を生きていくために求められる資質や能力の育成を目指しているように推察できる。(松田 實)

コンクール情報

■「全国マルチメディア学習教材活用コンテスト」参加作品募集

東京学芸大学ならびに(独)メディア教育開発センターでは、全国の小・中・高等学校、高専、大学の教育現場におけるマルチメディアを利用した学習教材の開発・利用を支援し、その発展の促進を目的に標記コンテストを実施する。

〈募集対象〉

「教室」を中心とした「教育現場」での利用を目的としたもので、授業をより魅力的にするための教材を対象とする。教科は指定しない。ただし、自学自習用の教材は対象としない。

A.「教材および教材の授業実践方法」(内容)独自に創作・開発した教材や市販の教材などを活用した授業実践方法を募集(部門)小学校の部、中・

高等学校の部、高専・大学の部 B.「教材のアイデア」(内容)こんな教材やあんな教材がほしい、という具体的なアイデアを募集(部門)全部門

〈応募資格〉

小・中・高等学校、高専、大学等教育機関の教師、及び将来教師をめざす学生。個人、団体を問わない。

〈応募媒体〉

フロッピーディスク/CD-ROM/DVD/ビデオテープ等

〈表彰〉

部門ごとに最優秀賞・優秀賞・佳作を選定

〈応募締め切り〉

8月31日(水)

〈応募先および問い合わせ先〉

東京学芸大学全国マルチメディア学習教材活用コンテスト実行委員会 〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1 東京学芸大学内 TEL&FAX 042-329-7255

<http://www.u-gakugei.ac.jp/~contest/index.html>

■「第43回日本産業映画・ビデオコンクール」入賞作品

(社)日本産業映画協議会主催による標記コンクールの入賞作品が次のように決定した。

〈日本産業映画・ビデオ大賞〉

「STOP HIV/AIDS エイズストップのために…」東京シネ・ビデオ(株)

〈文部科学大臣賞〉

「仕事 君はどう思う？」岩波映像(株)

〈経済産業大臣賞〉

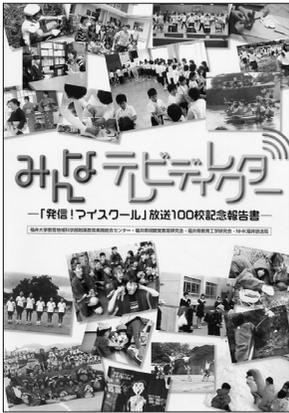
「機能調和材料の創成 原子・分子を扱うナノテクノロジー」(株)イメージサイエンス

他9作品が入賞。また、奨励賞には23作品が該当した。

■「第28回東京ビデオフェスティバルーTVF2006ー」参加作品募集開始

日本ビクター(株)は、“ビ

資料紹介



『みんなテレビディレクター
—「発信!マイスクール」放送
100校記念報告書—』

福井大学教育地域科学部附属教育実践総合センター・福井県視聴覚教育研究会・福井県教育工学研究会・NHK福井放送局 2005年3月発行

福井県では、学校とNHK福井放送局等が連携・協力して、小・中・高校生や教師が制作した映像作品を「発信マイスクール」という番組でローカル放送している。この番組は、子どもたちの日常の学校生活を「ニュース形式」や「ドキュメンタリー形式」で放送するもので、いわば絵や習字の公表と同じようにとらえられている。

「発信マイスクール」は、平成12年4月から放送が始まり、平成16年10月に放送回数が100回を数えた。この報告書は、その放送100回を記念して作られたものである。本報告書では、第1回から第100回までの番組の内容が画像とともに紹介されている。番組名を見ると、体育祭・文化祭等の学校行事や普通の授業の様子を伝える番組、自分の学校

やクラス、委員会活動や部活動を紹介する番組、地域の特産品をPRするCM番組等、多様であることがわかる。

この番組によって、普段の子どもたちの元気な様子を地域の方々に知ってもらうことができ、学校と地域をむすぶチャンネルとして、想像以上に大きな力を発揮したという。報告書に収録されている地域の人の声から、その様子がうかがえる。

本報告書をご希望の方は、A4サイズ封筒に、ご自分の住所、氏名を書き、切手390円を貼った返信用封筒を同封し、『「発信マイスクール」放送100校記念報告書を希望』と書いて、下記へお申し込みください。

〒919-8507 福井市文京3-9-1
福井大学教育地域科学部教育実践総合センター

デオソフトの制作”の普及・振興を図り、世界中に新しい映像文化を拡げていくことを目的に、標記フェスティバルを開催する。開催にあたり、自由な発想で撮ったオリジナリティ溢れる作品を募集する。

〈作品募集締め切り〉

平成17年9月30日(金)

〈募集作品〉

20分以内のビデオ作品(ミニDV、VHS/S-VHS/D-VHS、DVD)

〈テーマ・題材〉

テーマ・題材は問わない

〈賞〉

○ビデオ大賞(1作品・50万円)

○日本ビクター大賞(1作品・40万円)他

〈発表・表彰式〉

発表:平成18年1月

表彰式:平成18年2月

〈応募・問い合わせ先〉

日本ビクター(株)東京ビデオフェスティバル事務局

〒105-0004 東京都港区新橋1-7-1 ビクタービル3F

TEL 03-3289-2815

FAX 03-3289-2819

http://www.victor.co.jp/tvf/

■「第4回全国こども科学映像祭」参加作品募集開始

(財)日本科学映像協会等の主催による標記映像祭の参加作品の募集が開始された。

〈参加部門〉

○小学生部門:テーマ「みぢかな生きもののふしぎ」

○中学生部門:テーマ「科学の不思議を見つめると」

〈参加資格〉

○小学生及びその父母又は祖父母などの保護者、中学生の作品で、解説は日本語であること。

○参加作品は平成17年に制作されたものであること。

○参加作品はビデオテープ(VHS、S-VHS、8ミリビデオ、ミニDV(家庭用))で制作した

もの。等

〈表彰〉

○文部科学大臣賞(各部門1点)

○優秀作品賞(各部門数点)

○佳作(各部門数点)

〈応募締め切り〉

平成17年10月31日(月)

〈入賞作品の表彰および上映会〉

平成18年1月8日(日)

日本科学未来館 東京都江東区青海2-41

〈問い合わせ先〉

(財)日本科学映像協会

東京都港区虎ノ門1-17-3 第12森ビル8F

TEL 03-3504-1625

FAX 03-3504-1626

URL http://kaeiikyoo.net/

短 信

■全国高等学校メディア教育研究協議会の会長鍵山充尚氏が5月25日付で退任。後任会長には田中政美氏が就任。